



校長室だより

自立に向かって「自分から」

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信

第24号 令和5年3月24日

小美玉市立美野里中学校

「限界」をつくるのも自分、突破するのも自分

ー昨日、ワールドベースボールクラシック（WBC）で、日本が優勝し、世界一となりました。視聴率を見ると、普段あまり野球を見ない人も含め、多くの人たちが、日本チームの活躍に心を奪われたのではないのでしょうか。

思えば、野球だけでなく、先般、サッカーワールドカップでの日本チームの活躍にも、多くの人々が熱狂しました。スポーツが与えてくれる感動は、確かに大きなものがあります。

WBC 優勝直後、ほとんどのメディアで速報が報じられていました。そうした中、街角でのインタビューで、コロナ禍で苦しめられた飲食業の経営者の方が、「勇気をもらった。これ以上店を続けるのをあきらめかけていたけれど、自分も、何かできそうな気がしてきた。」とおっしゃっているのを見て、感銘を受けました。

「あきらめる」「限界をつくる」という決断をするのも自分。「もう一度やってみよう」「新しいことに挑戦してみよう」と限界に挑むのも自分。全ては自己責任。これには、自分自身への厳しさや覚悟が必要です。思うようにいかなかったとき、他人のせいにしがちな人がいますが、その人は、目指すところが低いのだと思います。本当に高いところ（それは、もはや「自分」という枠を超えたところでもあります）を目指す人は、「こんなレベルで満足することなく、さらに高みを目指そう」という気概をもった人です。でも、中には勘違いして、中途半端に成功すると天狗になり、さも自分がたいした人間だと思ってしまい、人に対して高飛車な態度に出てしまう人がいます。本当に高いところを目指す人は、謙虚であり、学ぶ姿勢がある人です。

「限界」を突破しようとする人は、順風満帆というわけにはいきません。試行錯誤しながら、時には苦い経験をしながら、力量を高めていきます。途中で逆境を味わうときこそが、後から振り返ってみれば一番成長しているときなのですが、渦中にいるときは苦しいものです。そんな逆境にいるときこそ、周りの人がよく見えるものです。急によそよそ

い態度になる人もいれば、本当に親身になって相談に乗ってくれたり、心に残る一言を言ってくれたりする人もいます。後者の人が、後々まで付き合っていくべき人です。



最後にもう一度、「高いところを目指す」ということは、自分の利益だけを追求して成功することを指すものではありません。身近な人や社会全体を視野に入れて、「高いところ」を目指していくということが、最終的には、その人自身も、周りの人も幸せにしていくのです。

子供たちには、大いなる可能性があります。自分なりに一人一人が限界に挑戦しながら、「高いところ」を目指し、幸せな人生を歩んでほしいと心から願っています。